

富士吉田白糸瀧

成田凜

星が落ちている

その森は春

午後六時富士北東白糸の瀧、星の迷い子、山間は雲霧のさなかに包まれ、月
の出る夕暮れ、峠道はこの先車で行くべからず、わたしたちは歩いて星昇り、
土踏み、草分け、橋渡り、石も苔も話しているみたい、千言万葉、ちやるち
やる話しているみたい、話し声って音波にされてだんだん碎けて壊れて届く
みたい、ちるちる石声苔声の跡が窪む、窪みに落ちる木漏れ星の古いこと、
数億年、数億年前の壊れた声が反射する、目に刺さる、涙、目が霞む、霧が
いっそう深まる

下見の瀧まであと五分、白糸の瀧まであと十五分だって。ここからわりと山
登りになるのかも。……。そこはそっちに曲がって。こっちは休憩所だから。
ここ滑りやすいかも、っ……。……。足が増えたみたい。その岩階段、気
をつけて。なんかこっちを見てる。雨だと思ったら霧だったらしい。霧だと思
 ったら雲だったみたい。わたしたち、雲のなかに来ちゃったのかも。下見
 て、もうこんなに登った。ね。滝の中、見える？ 滝ってなにでできている
 か、知ってる？

この森で手がおかしい。

この森で膝がおかしい。

わたしの体が冷たい。冷気で服に穴が空く。

目が痛む、妙に明るくて痛む。この光は。

星がおかしい。足元で白く輝いて、天になにもない。

階段 その森 ある気配